

OFFICE 365移行ガイド

移行を成功させるために重要な5つの
すべきこととしてはいけないこと

執筆: Quest Software、ディスティングイッシュトエンジニア (Microsoft MVP)、
Curtis Johnstone/Quest Software、シニア・システム・コンサルタント、
Ewan Millington/Quest Software、ソリューションズアーキテクト、Jeff Shahan



Quest®

 Metalogix
Now part of Quest

Office 365への移行を 計画中ですか？

高まる人気

Microsoft Office 365とそのバックエンドの認証システムであるAzure Active Directory (AD)、さらにはSharePoint OnlineやExchange Onlineなどのクラウドサービス関連アプリケーションを採用する組織がますます増えています。実際、Microsoftの報告によると、現在Office 365の法人ユーザ数は月間1億3,500万人で、Azure ADのテナントは1,000万を超えています。また、20万を超える組織と1億9,000万もの人が、イントラネットの構築、チームサイトの作成、およびコンテンツ管理のためにSharePointを利用しているとのことです。この数字は今後も急速に増え続ける見込みで、例えばOffice 365のユーザ数は2019年までに倍以上になる見込みです。

このように採用数が飛躍的に伸びているのにはいくつか理由があります。ひとつは、広く普及してきたレガシーのオンプレミスシステムの一部がメインストリームサポートの終了を迎えつつあるためです。例えば、Exchange 2013のメインストリームサポートは2018年4月10日に終了しています。その他の組織でも合併や買収を契機に自社の環境を最新化し、現代の労働ニーズに合わせる取り組みが広がっています。

OFFICE 365とAZURE ADのメリット

優れたシステムを組織に選んでもらうときによく筆頭に挙がるのが、Office 365とAzure ADです。Office 365は今では優れたコラボレーション・クラウド・サービス・プラットフォームへと成長し、安定性、柔軟性、および生産性を高めるための高可用性を備え、現代の組織に欠かせないセキュリティとコンプライアンスも実現します。さらに、Office 365のアプリケーションはオンプレミスのアプリケーションと同等の機能を備えるまでになりました。Office 365を月次サブスクリプションで利用すれば必要なものがすべて手に入る今、

Office 365のユーザ数は
2019年までに倍以上になる
見込みです。



オンプレミスのEメール、コラボレーション、通信機能、さらにはそのサポートインフラストラクチャとサポートサービス全体に費用をかける理由はなかなか見つかりません。

Azure ADには、SalesforceのようなMicrosoft以外のアプリケーションを含む数々のエンドユーザアプリケーションにシングルサインオン (SSO) できる機能など、独自の魅力ある機能がいくつか加わりました。また、便利なセキュリティ機能も数多く備えています。例えば、条件付きアクセスポリシーを使用すると、Azure ADとOffice 365の特定の部分に必要な時のみアクセスできる管理権限を簡単に付与できます。

さらに、クラウドサービスに移行すれば、SharePoint OnlineやExchange Onlineなどのアプリケーションを利用することもできます。例えばSharePoint Onlineには、ユーザごとに付与されるOneDriveのクラウド・サービス・ストレージ、組織内外の人と安全にコンテンツを共有できる機能、容易なコンテンツ管

理、チームサイトとコミュニケーションサイト、高度な情報漏洩対策 (DLP) 機能、検索、および電子情報開示など、優れたコラボレーション機能が備わっています。

数多くの組織がこれらのクラウドサービス技術に既に移行し、これから移行しようという組織が多いのもうなずけます。

OFFICE 365への移行の課題

Office 365の導入はとても魅力的です。とはいえ、移行への道のりは簡単なものではありません。取り組むべき課題の難易度は他の移行の場合と同様に高く、移行元環境の評価、インベントリ、および整理を適切に行い、移行を効率的に実施してその進捗状況を追跡し、移行プロセス中でもユーザが通常の業務を行えるようにしなければなりません。また、移行先環境でも適切な管理を行えるようにするほか、移行中にユーザと密にコミュニケーションをとることも、もちろん必要です。

ベストプラクティスに従い適切なツールを選択すれば、Office 365にスムーズにうまく移行することができます。

移行元のプラットフォームからOffice 365への権限マッピングの試行、機能制限やサイズ制限への対応、複数のファーム全体にまたがるSharePointアプリケーションとデータ拡散の包括的なインベントリ、高度にカスタマイズされたSharePointアプリケーションの移行など、クラウドサービスへの移行特有の課題もあります。さらにネイティブツールには、テナントの統合機能や、テナントから別のテナントへの移行機能がもともと備わっていないなど、Office 365とAzure ADへの移行プロセスの各フェーズで致命的な弱点があります。

課題を克服するためにすべきことと、してはいけないこと

しかし、正しい知識と正しいツールを用いれば、こういった課題にはすべてスマートに対応できるようになります。このe-bookでご紹介する5つの重要なベストプラクティスを実行すれば、Office 365にスムーズにうまく移行することができます。



準備を怠らない。



共存の計画を策定する。



業務への影響を最小限に抑える。



セキュリティのABCを実行する。



移行後の管理を忘れない。

ここからは、移行前の計画策定から、移行と共存、新しい環境での移行後の管理に至るまでの移行プロセス全体を、Quest®独自のソリューションでシンプルかつ円滑に行う方法をご紹介します。





準備を怠らない。

「もし6時間、木を切る時間を与えられたら、そのうち初めの4時間を私は斧を研ぐのに使うだろう」とかつてエイブラハム・リンカーンは言いましたが、これは移行する場合にも当てはまる、理にかなったアドバイスです。入念な準備に時間をかけても元は簡単に取りれます。問題の発生がはるかに少なくなるため迅速に移行でき、管理とセキュリティ保護が容易な、欠陥の少ない移行先環境を構築できるからです。準備段階で必ず確認しておくべき重要なチェック項目を次に挙げます。

現在の環境に何が含まれているか

移行をする場合の最初のステップとして重要なのが、移行元環境のインベントリを正確に行うことです。まずは、ユーザアカウント、ログオン名、Eメールアドレス、SharePointのコンテンツ、情報アーキテクチャ、Webパーツおよびソリューション（特にユーザごとの個別の仕様すべて）、さらに、Exchangeのメールボックスおよびパブリックフォルダの数とサイズなど、基本的な所から始めるとよいでしょう。ただし、現在のセキュリティ管理の方法と、どんな許可と委任を設定しているかについても必ず考えましょう。また、すべてのファイル共有、Eメールのアーカイブ、オフラインPSTファイルを検出して所有者を確認してください。そうすることで目的と価値を判断できます。

適切に準備をすることで、問題の発生がはるかに少なくなるため迅速に移行ができ、管理とセキュリティ保護が容易な、欠陥の少ない移行先環境を構築できます。

コツとしてひとつ重要なのは、アプリケーションのインベントリを早めに始めることです。もし重要なアプリケーションが移行先のプラットフォームで動作しなかった場合、移行の再検討が必要になるということにもなりかねません。アプリケーション名をリストアップするだけでは不十分です。バージョンや設定などの詳細まで調べて記録を付けましょう。

関係者との会話を通じて検出できるものもありますが、多くはITシステムを調べる必要があります。なお、ネイティブツールを使ってデータの収集と処理を行うのは時間がかかり、スクリプトの専門知識が必要となりますが、サードパーティのソフトウェアを使えば作業を大幅に効率化できるうえ、検出漏れが少なく精度の高い結果を得ることができます。

移行先環境に何を求めるか


Office 365で何を実現したいかが分かると、移行について決めるべき多くのことが見えてきます。移行先でホストしたいデータとアプリケーションを考えましょう。どのようなユーザエクスペリエンスを目指すのかということについて、業務をはっきり把握しないまま先に進んではいけません。

どこまでを移行の対象範囲とするか。ガバナンス、コンプライアンス、または技術的な理由でクラウドサービスに移行できないものがないか

移行すべきものとそうでないものをよく考えましょう。例えば、オンプレミスに残しておく必要のある機密データや、クラウドサービスのメールボックスと連携できないアプリケーションがあるかもしれません。

移行前に修復の必要なものがあるか

移行を開始する前に、現在の環境を整理しておきましょう。不要なものや移行すべきではないものを移行すると、余計な時間がかかり、課題が発生するリスクが高まるうえ、移行先の新しい環境でも面倒な問題が発生してしまうからです。また、ADの一部再構築や統合を必要としている組織も多く存在します。これまで先延ばしにしてきたのであれば、移行開始前に取り組みましょう。



アプリケーションのインベントリを早めに始めましょう。もし重要なアプリケーションが移行先のプラットフォームで動作しなかった場合、移行の再検討が必要になるということにもなりかねません。

さらに、SharePointサイトのメトリックスを確認して、SharePointの現在の使用状況を把握しましょう。これで、移行前に再編成が必要かもしれないサイトとコンテンツを判断することができます。

移行中に課題が発生した場合、迅速にリカバリできるか

残念ながら、計画と準備を万全に行ったとしても、移行に課題がまったく発生しないわけではありません。移行すべきではないものを移行してしまったり、ユーザの準備が整わないうちに移行してしまったりすることがあるかもしれません。Outlookのサードパーティのアドオンがメールアイテムに何らかの不審な振る舞いをして移行を妨げたり、名前解決や信頼できる動作が予期せず発生したりする恐れもあります。不具合の発生に備え、移行中に不要な変更が起きた場合には素早くロールバックできるようにしておくことが必要です。

万全な準備をしても移行に課題がまったく発生しないわけではないため、不要な変更が生じた場合には素早くロールバックできるようにしておきましょう。

移行にどれくらいの時間がかかるか。共存要件は何か

インベントリと移行対象の分析を詳しく行うと、移行の所要時間を計算できるようになります。移行中にユーザはどのような形で業務を行い、連携とコミュニケーションを取る必要があるのか、Office 365に移行済みのユーザとレガシーの環境を引き続き使用しているユーザが共存するタイミングはいつなのかを分析して記録を付けましょう。（この共存期間は非常に重要なため、次のベストプラクティスで、共存計画の策定について詳しく説明します。）

移行元環境の運用はいつ停止すればよいか

目指す移行の形によっては、移行後に移行元環境の一部または全部を停止できる場合もあります。例えば、Exchange Onlineに完全移行中の場合なら、移行後なるべくすぐにオンプレミスのExchangeを廃止して、その維持にかかる労力と費用をなくしたいと思うでしょう。しかし、新しい環境が正常に稼働していることを確認する方法と、移行元環境が不要だと断言できるまでに必要な時間をよく考えておく必要があります。





共存の計画を策定する。

移行が成功したかどうかは、その影響を受けるユーザの利用状況を見ればまず分かります。そのため、ユーザエクスペリエンスをできるだけシームレスにしたいと思うでしょう。移行は完了までに月単位の時間がかかることもあります。もしユーザが業務を行えず、効率的な連携や組織内外とのコミュニケーションが取れないと、ビジネスに支障が生じるでしょう。そうなれば、移行チームは批判を受けることになります。

ここで、オンプレミスのExchangeからExchange OnlineへEメールを移行する例を考えてみます。準備段階で、既に過去のEメールのアーカイブを終え、クラウドサービスに移行してはいけない機密性の高いメールボックスの識別もきつと終えているでしょう。しかし、恐らく大容量のメールボックスがまだ大量に残っているため、すべてを移行するには時間がかかります。そこで、ユーザが業務を引き続き効率的に行えるよう、移行元と移行先のメールボックスを水面下で同期し、さらには予定表、アドレスリスト、パブリックフォルダを同期する必要があります。これなら、移行済みのユーザとそうでないユーザがいる場合でも、連絡、ミーティングのスケジュール設定、コラボレーションなどを誰もが引き続き行えるからです。個々のユーザグループを移行するときには、そのグループを移行先のメールボックスに振り向けるよう切り替えるだけです。仮に移行中に不具合が発生しても、スイッチを切り替えるだけで、ユーザを移行元のメールボックスに戻すことができます。

移行は完了までに月単位の時間がかかることもあるため、移行中でもユーザが業務を遂行でき、連携とコミュニケーションを取れるようにする必要があります。

また、ADユーザとグループを同期できるようにする必要も出てきます。そうすることで、ユーザのスケジュールと部門ごとの要件を考慮しながら、まとめてシームレスに移行できるからです。さらに、ファイルサーバ、データベース、SharePointのサイトなどバックエンドのリソースは、ユーザが業務上重要なプロセスを行う上で欠かせないため、シームレスに移行する必要もあります。

しかし、いずれの作業もネイティブツールで行うのは簡単なことではありません。データを同期するには、長いスクリプトをいくつも作成し、それを繰り返し実行するスケジュールを設定して、最新の状態を保たなければならないでしょう。課題に対処するのは大変な作業です。例えばメールボックスの移行の復帰作業は、メールボックスを移行元環境に戻さなければならないため時間がかかります。ついては、強力な共存機能を持ったサードパーティのツールを探しましょう。

ネイティブツールを使ったメールボックスの移行の復帰作業は、メールボックスを移行元環境に戻さなければならないため時間がかかります。ついては、強力な共存機能を持ったサードパーティのツールを探しましょう。

業務への影響を最小限に抑える。

移行による業務への影響を最小限に抑えるために特に重要となるのは共存の計画を策定することですが、他にも検討すべき要素があります。

正確さと完璧さ

成功とみなされる移行は、完璧かつ正確でなければなりません。必要なデータすべてを確実に移行したというだけでは不十分で、ユーザが新しい環境で効率的に作業できる必要があります。例えば、各ユーザのWindowsとOutlookのプロファイルは必ずアップデートしなければなりません。そうすることで、移行後にログオンする際もまったく同じデスクトップが表示され、Outlookを手作業で構成し直すことなく移行先のメールボックス環境に接続できるようになります。また、SharePointのサイトとOneDriveのデータが完璧かつ正確に移行されていないと、ユーザは不満に思うでしょう。

パフォーマンスと拡張性

移行をできるだけ迅速に終わらせることも、ユーザ、そしてあなた自身を満足させることにつながります。例えば、複数の移行作業を同時に行えるソリューションを導入すれば、実行すべき作業をユーザに一番都合のいいタイミングにスケジュール設定できます。ITチームのメンバーがその都度作業を進める必要はありません。

Outlookを手作業で再設定する必要があったり、SharePointのデータが完全かつ正確に移行できていなかったりすると、ユーザは移行が成功したとは思わないでしょう。

管理とレポート作成

経営陣を満足させるには、移行の進捗状況を定期的に更新できるようにする必要があります。効率的な管理とレポート作成を行うことで、費用を削減し、移行をスケジュール通りに終わらせることもできます。ネイティブツールでは移行の現在の状況を確認しにくく、管理者が大量のカスタムスクリプトを作成、実行しなければならないことがよくあります。多くの場合、サードパーティのソリューションには移行ステータスの追跡とレポート作成を簡単に行えるダッシュボードが備わっています。

プロフェッショナルサービス

ITの専門家といえども、大抵の人はそう頻繁に移行を行うわけではありません。チームの中にも一度もやったことがないという人が多いかもしれません。しかも、彼らは他にやるべきことを既に山ほど抱えています。ですから、プロジェクト全体の移行であれ、特定の部分のみの移行であれ、移行の専門家の助けを得ることを考えましょう。

サポート

移行作業はたいいてい業務時間後に行われますが、何か課題が発生すれば、業務への影響を最小限に抑えるため、なるべく迅速に対応する必要があります。そのため、組織内のチームまたはプロフェッショナル・サービス・パートナーによる24x7サポートを受けることが重要です。

移行にQuestをお勧めする理由は？

「自分でスクリプトの書き方を覚える手間が省けるからです。」

大手保険会社、ITスペシャリスト

Techvalidate, TVID 374-11B-83C



セキュリティのABCを実行する。

少なくとも、移行を行うことで権限が弱体化しないようにする必要があります。しかし、新しく移行先の環境を構築している時というのは、ずっとやろうと思っていたにもかかわらず、レガシー環境では難しくてもできなかったセキュリティ対策を講じる絶好のタイミングでもあります。

監査 (AUDIT) のA

新しいOffice 365環境のセキュリティを維持するには、そこで何が起きているかを監査する必要があります。Microsoftでネイティブの監査機能をいくつか提供しているほか、どんな監査プラットフォームにもデータを集約できるサードパーティのツールもいくつかあります。

ユーザの行動を把握することで、そのプラットフォームを適切に動かし、投入した資産を最大限に生かし切れるようにもなります。

バックアップ (BACKUP) のB

新しい環境のバックアップも必要です。Microsoftにはプラットフォームを常時稼働させる責任があるため、バックエンドで障害が発生した場合にはプラットフォームにバックアップを提供してくれます。ただ、データとなると話は別です。

Office 365への移行は、ずっとやろうと思っていたにもかかわらず、レガシー環境では難しくてもできなかったセキュリティ対策を講じる絶好のタイミングです。

仮にミスをして何かをうっかり削除してしまった場合は、自分でそれを確実にリカバリできなければなりません。Azure ADにはごみ箱機能があるものの致命的な弱点があるため、包括的なバックアップ/リカバリソリューションに投資する必要があります。

Azure ADのネイティブのクラウド・ディザスタ・リカバリ機能とオンプレミスのAD環境のディザスタリカバリ機能との違い、およびクラウドサービスまたはハイブリッドの新しい環境を適切に保護するために必要な機能の詳細については、ホワイトペーパー『クラウドサービスまたはハイブリッド環境でのActive Directoryのリカバリ(英語版)』を参照してください。

制御 (CONTROL) のC

セキュリティには厳格な権限管理とユーザプロビジョニング (およびデプロビジョニング) も必要です。ADユーザとグループ、およびSharePointのコンテンツの権限とグループを慎重に管理し、すべてのアクセス権が最小権限の原則に従って付与されるようにしなければなりません。ネイティブツールでは制御を適切に行うことが難しく、時間がかかり、間違いも起きやすいため、作業を自動化、効率化してくれるエンタープライズのIDおよびアクセス管理ソリューションへの投資を検討してみましょう。

移行にQuestをお勧めする理由は何ですか？

「スムーズな移行と、エンドユーザの生産性の維持、そして移行中の共存が可能だからです。」

Econocom Group, ITアーキテクト, Tony Allamelou氏

TechValidate, TVID_089-FC9-7F2



移行後の管理を忘れない。

移行後の管理と聞くと、「でも、もうそういうことをしないで済むというのが、Office 365環境に移行する主なメリットでは?」と思うのではないのでしょうか。

確かに、Microsoftのクラウドサービスに移行すれば、多くの管理作業を行わなくてよくなります。まず、ITチームがハードウェアを管理したりプロビジョニングしたりする必要がなくなり、さらに、Microsoftが責任を持ってプラットフォームのハイパフォーマンスと可用性を保証してくれるからです。

とはいえ、チームでやるべきことはまだまだたくさんあります。既に取り上げたセキュリティとバックアップに関する作業に加え、Office 365、Azure AD、SharePoint Online、Exchange Online、およびSkype for Businessの日々の管理もあります。さらに、組織内のポリシーと外部規制の両方を満たす適切なITガバナンスとコンプライアンスを維持するという、広範囲に及ぶ作業もあり、権限に関するレポート作成、特権アカウント管理、コンプライアンスの監査、プロビジョニング、バックアップ/リカバリ、ライセンス管理などを効率的に行えるようにする必要があります。移行を始める前に適切なツールを適切に導入すれば、初日からセキュアかつ効率的な環境を確保することができます。

Microsoftがパフォーマンスと可用性に対する責任を負うとはいえ、Office 365環境の管理とセキュリティ保護は引き続き行う必要があります。

Questによるサポート

これまで見てきたように、ネイティブツールを使用して移行を行おうとすると、費用もリスクも上がります。ネイティブツールは機能が限られているため、必要な機能を一部利用できなかったり、手作業や複雑なスクリプト作成を大量に行わなければならなかったりすることもよくあります。これからご紹介するQuest®独自のソリューションを利用すれば、移行前の準備から移行、共存、移行後の管理に至るまで、移行の各段階をシンプル化、合理化することができます。

移行前ツール

- **Enterprise Reporter Suite**は、構成もアクセス権限も含め、移行元のWindows環境内の重要なIT資産すべてを詳しく分析します。また、課題が見つければ簡単に修正することができ、迅速な移行と、欠陥が少なく安全度の高い移行先環境を実現できます。
- **Change Auditor**は、移行元環境の構成、権限およびユーザアクティビティを簡単に確認することができ、インベントリと分析を包括的に行えるようにします。

移行にQuestをお勧めする理由は？

「役に立つから。これに尽きます。これこそ、EメールシステムをOffice 365に移行しようとするITの専門家が望んでいることです。役に立つものがほしいのです。」

QCM Technologies, Inc.、シニア・エンタープライズ・コンサルタント、Ron Buie氏

Techvalidate、TVID 3F2-15E-E18



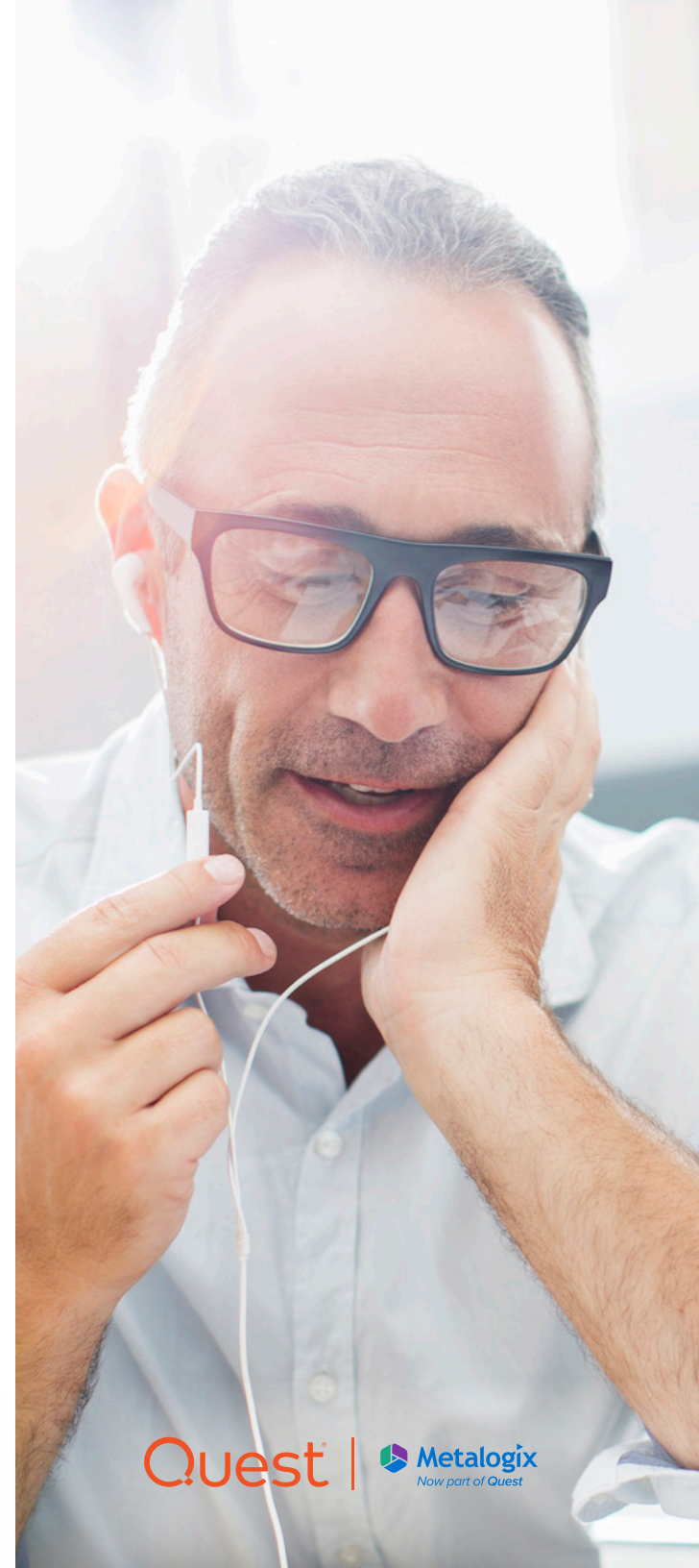
移行および共存ツール

Questの移行ツールは、高度な自動化、容易な管理とレポート作成、および拡張性によって、ZeroIMPACTな移行とシームレスな共存を実現します。

- **Migration Manager for Active Directory**は、ユーザ、グループ、コンピュータ、ボリューム、プリンタ、コンタクト先、組織単位、ネットワーク接続形態（サイト、サブネット、サイトリンク）など、ディレクトリの移行に対応します。
- **Migration Manger for Exchange**は、メールボックス、配布グループ、予定表、およびパブリックフォルダを移行、同期できます。
- **On Demand Migration**は、ディレクトリ、メールボックス、および共有データをOffice 365のテナントから別のテナントへ安全に移行でき、すべての作業を1つのSaaSインターフェイスから行うことができます。
- **Migration Manager for PSTs**は、PSTファイルの識別、移行、および削除を自動化できます。
- **Migrator for Notes to SharePoint**は、IBM Lotus Notes、QuickPlace/Quickr、およびDomino.Docのアプリケーションを、高いデータ再現性と最低限のダウンタイムでOffice 365に簡単に移行できます。
- **Migrator for GroupWise**は、GroupWiseからOffice 365への移行を正確に実行し、Eメール、予定表、タスク、個人用アドレス帳、よくやり取りするコンタクト先、アーカイブ、定期的な会議などを移行できます。
- **Metalogix® Essentials for Office 365**は、SharePoint、Box、Dropbox、Google Drive、個人のドライブ、およびファイル共有からOffice 365にコンテンツを簡単に統合できます。レポートを表示し、正常に移行できたものの確認と適切な問題修正を行うことができます。
- **Metalogix Expert**は、SharePointの移行計画、ストレージ構成の最適化、およびセキュリティリスクの防止に役立つ有益な情報を提供します。
- **Metalogix Content Matrix**は、SharePointの複雑な移行をシンプルにし、業務プロセスを中断することなくファイル共有を統合できます。

移行後の管理ツール

- **One Identity Active Roles**は、Active DirectoryとAzure ADの両方で特権アカウント管理を包括的に行うことができます。お使いのハイブリッド環境全体での作業を1つのコンソールで行うことができるため、ワークフローを統合し、一貫性のある管理が可能になります。
- **Change Auditor for Exchange**は、ExchangeおよびExchange Onlineの設定と権限の変更をリアルタイムで監査し、レポート作成と警告を行います。ハイブリッドのメール環境全体でアクティビティを簡単に検索して関連付けることができ、さらに、機密情報を含んだメールボックスへのオーナー以外によるアクセスを禁止できます。
- **Change Auditor for Active Directory**は、Azure ADまたはハイブリッド環境のすべてのアクティビティを1ヶ所に関連付けて表示することで監査をシンプルにし、重要な変更についてはリアルタイムで警告します。また、特に重要なActive Directoryのオブジェクトを変更できないよう保護することもできます。
- **Enterprise Reporter Suite**は移行前の計画策定にも役立ちますが、移行後にも便利です。詳しい分析、レポート作成、および必要な修復を行って、セキュリティ、コンプライアンス、生産性を確保することができます。
- **Recovery Manager for Exchange**は、Office 365のメールボックス、オンプレミスのメールボックス、およびPSTなど複数のEメールソースを1つのインターフェイスで同時に検索できるため、Eメールを素早く検出することができます。Office 365のメールボックスにはバックアップがないためリカバリはできませんが、メールボックスの中身を読み取り、それをPSTに復元することで、法務部門によるデータ抜粋をサポートします。
- **On Demand Recovery for Azure Active Directory**は、1つのSaaSインターフェイスから、Azure ADのユーザ、属性、グループ、およびグループメンバーシップを高速かつ安全にリカバリすることができます。
- **Unified Communications Command Suite**は、Office 365、Exchange、Skype for Business、およびCisco Unified Communications Managerのすべてのコスト、普及率、およびパフォーマンスを分析することで、セキュリティと使い勝手の両方を向上させることができます。
- **Metalogix StoragePoint**はストレージを最適化し、SharePointのコストを管理して優れたパフォーマンスを実現することができます。



- 
- **Metalogix ControlPoint** は、不審なユーザアクティビティの検出、個人情報や機密情報などを含む文書の識別などを行うことで、SharePoint 環境にある機密性の高いコンテンツのセキュリティ保護、管理、およびガバナンスをサポートします。
 - **Metalogix Sensitive Content Manager** は、オンプレミスおよびクラウドサービスにある機密性の高いSharePointコンテンツを検出、分類します。
 - **Metalogix Archive Manager** は、組織のすべてのファイルとEメールのアーカイブ、管理、および保護を自動で行います。

受賞歴を誇るサービスとサポート

もちろんソリューションを導入しても、移行が複雑な作業であることに変わりはなく、ITの専門家でも移行作業の経験が比較的少ないという人がほとんどです。受賞歴を誇る当社の24x7テクニカルサポートなら、移行中に発生するかもしれない問題のトラブルシューティングにいつでも対応します。さらにきめ細かいサポートをご希望の場合は、当社のプロフェッショナル・サービス・チームにお任せください。専門的なアドバイス、プロジェクトの一括管理、またはその中間的な要望など内容にかかわらず、数々の移行をこなしてきたスタッフが、目指す移行の形を達成できるようサポートします。

まとめ

移行は複雑かつ重要な作業であり、Office 365への移行もその例外ではありません。しかし幸いなことに、確立された方法が既に存在します。ここでご紹介した方法に従い適切な移行ツールを選択すれば、より早く正確性の高い移行を実現でき、ユーザと業務に与える影響を最小限に抑えることができます。

詳細については、以下のページをご覧ください。

quest.com/solutions/migration-and-consolidation

QUESTについて

Questでは、複雑な問題をシンプルなソリューションで解決することを目的としています。当社は、優れた製品と優れたサービスを大切に、シンプルにビジネスを行うという全体的な目標を重視する哲学をもって、これを達成しています。当社のビジョンは、効率性と有効性のどちらかを選ばなければならないような状況をつくらないテクノロジーを提供することです。これにより、お客様と組織はIT管理の時間を短縮し、より多くの時間をビジネスの革新に費やすことができます。

本書の使用に関して不明な点がございましたら、以下までお問い合わせください。

www.quest.com/JP-JA/company/contact-us.aspx

© 2018 Quest Software Inc. ALL RIGHTS RESERVED.

本書に記載されている専有情報は、著作権によって保護されています。本書に記載されているソフトウェアは、ソフトウェアライセンスまたは機密保持契約のもとに提供されます。本ソフトウェアは、当該契約の条項に従う場合に限り、使用または複製できるものとします。本書のいかなる部分も、Quest Software Incの書面による許可なく、複写および録音を含む電子的または機械的ないかなる形式や手段においても、あるいはいかなる目的においても、複製または転載することはできません。

本書に記載されている情報は、Quest Software製品の概要説明を目的としたものです。本書によって、あるいはQuest Software製品の販売に関連して、明示または黙示にかかわらず、禁反言やその他の方法によって生じる、いかなる知的所有権に対するライセンスも許諾されません。当該製品のライセンス契約で指定されている約款に記載されている場合を除き、Quest Softwareはいかなる責任も負うものではなく、商品性、特定目的への適合性、または非侵害性に関する黙示的保証を含め（ただしこれらに限定されない）、その製品に関連する一切の明示的、黙示的、または法令による保証を行いません。Quest Softwareは、いかなる場合においても、本書の使用または使用不可能に起因する直接損害、間接損害、結果的損害、懲罰的損害、特別損害、または付随的損害（営業利益の損失、ビジネスの中断、情報の紛失を含むがこれらに限定されない）について、仮にそれらの発生の可能性を知らされていたとしても、一切の責任を負いません。Quest Softwareは、本書の内容の正確性または完全性に関する保証または表明を行わず、仕様および製品の説明に対する変更をいつでも予告なく行う権利を有します。Quest Softwareは、本書に記載されている情報を更新する確約を一切行いません。

特許

Quest Softwareは、当社の先進的なテクノロジーを誇りにしています。この製品には、特許および出願中の特許が適用される場合があります。この製品に適用される特許の最新情報については、当社のWebサイト（www.quest.com/jp-ja/legal/）をご覧ください。

商標

Quest、Metalogix、およびQuestロゴは、Quest Software Incの商標または登録商標です。Questの商標の一覧については、www.quest.com/legal/trademark-information.aspxをご覧ください。その他すべての商標は各所有者に帰属します。